



低学年向けプラン： 分け与える喜びを知る 体験型授業

この授業プランは、低学年の子どもたちに「分け与える喜び」を体験を通じて学んでもらうことを目的としています。働くこと、稼ぐこと、そして分け合うことの価値を、実際の活動を通じて理解することができます。この体験型授業を通じて、子どもたちは社会の仕組みや協力の大切さを楽しみながら学ぶことができます。

授業のねらい

分け与える行動の価値を体験的に学ぶ

他者と共有することで得られる喜びや安心感を理解する。

働くことと喜びのつながりを知る

自分の仕事が他者や自分にどのように役立つかを具体的に体感する。

納税や協力の仕組みを実感する

稼いだ成果の一部を手放すことの葛藤を通じ、納税や分担が社会全体のために役立つことを学ぶ。

協力による「みんなの幸せ」を体感する

自分一人だけでは得られない喜びが、分け合うことで得られることを学ぶ。



授業概要

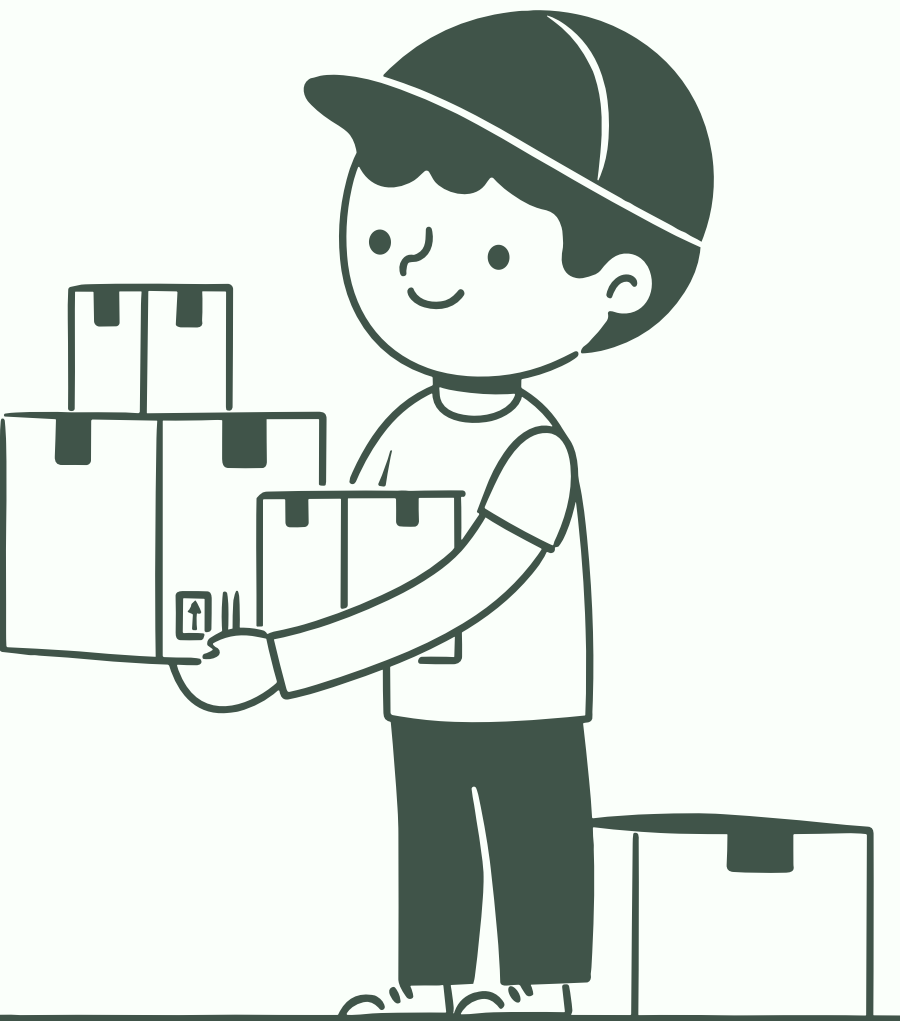
目的

分け与えることで最終的に自分にも喜びが返ってくることを体験し、納税や協力の価値を学ぶ。

授業時間

合計90分（1コマ45分×2）。





1コマ目：模擬仕事でお金を稼ぐ

1

さつまいもを洗う仕事を体験

子どもたちは、さつまいもを洗う仕事を体験し、対価として模擬的なお金を稼ぐ。

2

稼いだ金額を計算

稼いだ金額を計算し、達成感を味わう。



2コマ目：納税と還元を体験 (前半)

1

稼いだお金の半分以上を納税

稼いだお金の半分以上を「税金」として大人（税務署役）に収める。

2

納税をめぐる葛藤を体験

納税をめぐる葛藤を体験する。

2コマ目：納税と還元を体験 (後半)

1

みかんを購入

集まった税金でみかんを購入する。

2

みんなで分け合い

購入したみかんをみんなで分け合い食べる。

3

喜びを実感

「みんなで協力して得た喜び」を実感。



学びのポイント

分け与える行動の価値

分け与える行動がもたらす相互の喜びを理解します。子どもたちは、自分の労働の成果を他の人と分かち合うことで、新たな喜びや満足感を得られることを学びます。

納税の意義

納税が「社会を支える仕組み」であることを体験的に学びます。自分たちが納めた税金が、みんなで楽しむことのできるものになる過程を直接体験することで、納税の意義を実感します。

まとめ

1

社会の仕組みを体験

働く、稼ぐ、納税する、分け合うという社会の基本的な仕組みを体験します。

2

協力の価値を学ぶ

みんなで協力することで、個人では得られない喜びや成果が得られることを学びます。

3

分け与える喜びを知る

分け与えることが、最終的に自分自身にも喜びをもたらすことを体験的に理解します。

この体験型授業を通じて、子どもたちは社会の中で協力することの大切さと、分け与えることの喜びを楽しみながら学ぶことができます。この経験は、将来の社会人としての基礎を築く重要な一歩となるでしょう。

授業の体験談はこちら

